

最大火力停止 停電ドミノ

時刻表

停止中の泊原発 外部電源一時喪失

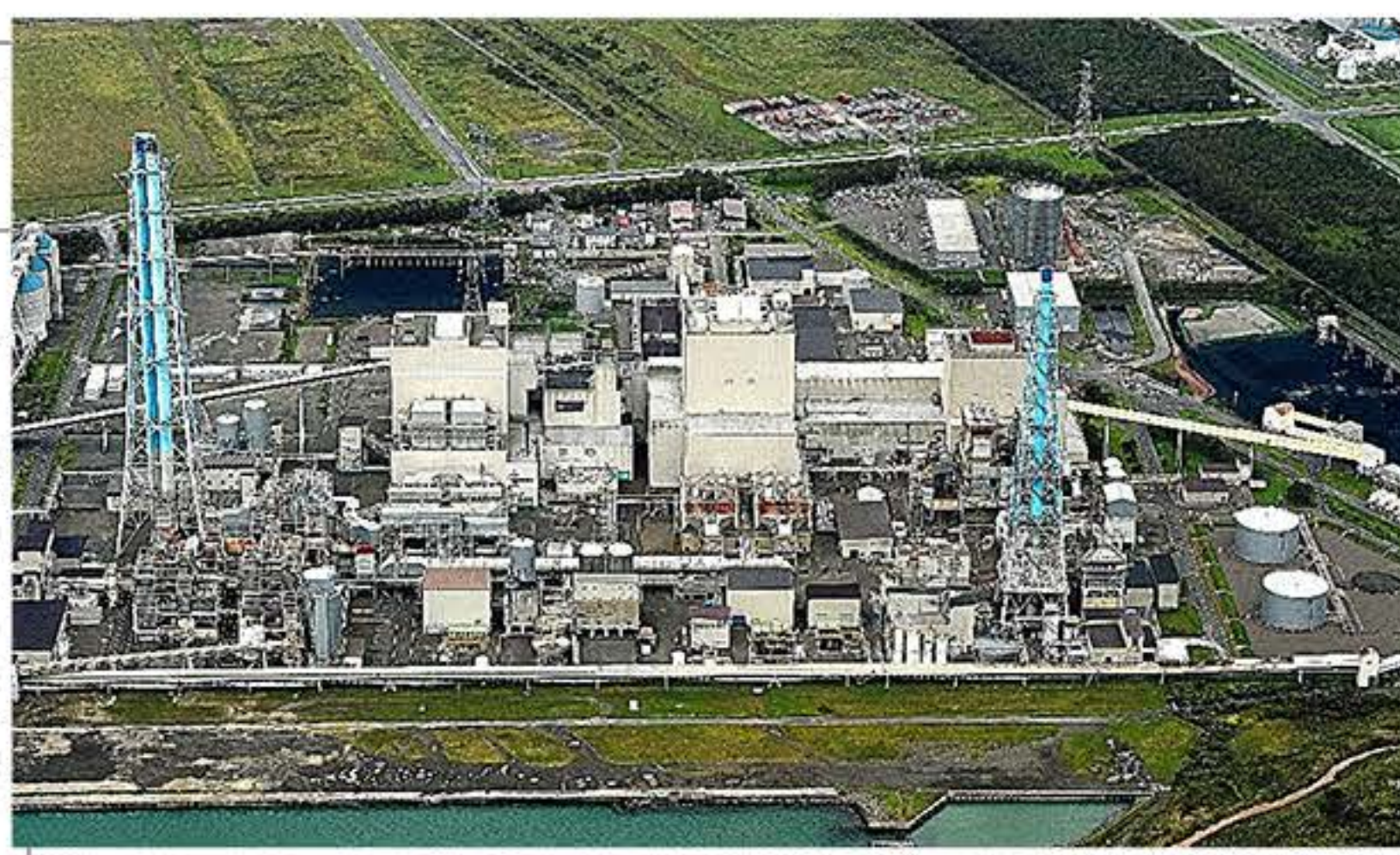
6日未明に発生した地震による停電で、北海道電力泊原発1号機は、外部電源が一時的に喪失。約9時間半にわたり非常用ディーゼル発電機で電気を供給し、使用済燃料プールにある核燃料の冷却が続いた。地震発生後、外部電源が一時喪失した。約9時間半にわたり非常用ディーゼル発電機で電気を供給し、使用済燃料プールにある核燃料の冷却が続いた。地震発生後、外部電源が一時喪失した。約9時間半にわたり非常用ディーゼル発電機で電気を供給し、使用済燃料プールにある核燃料の冷却が続いた。

信号機・病院…都市機能マヒ

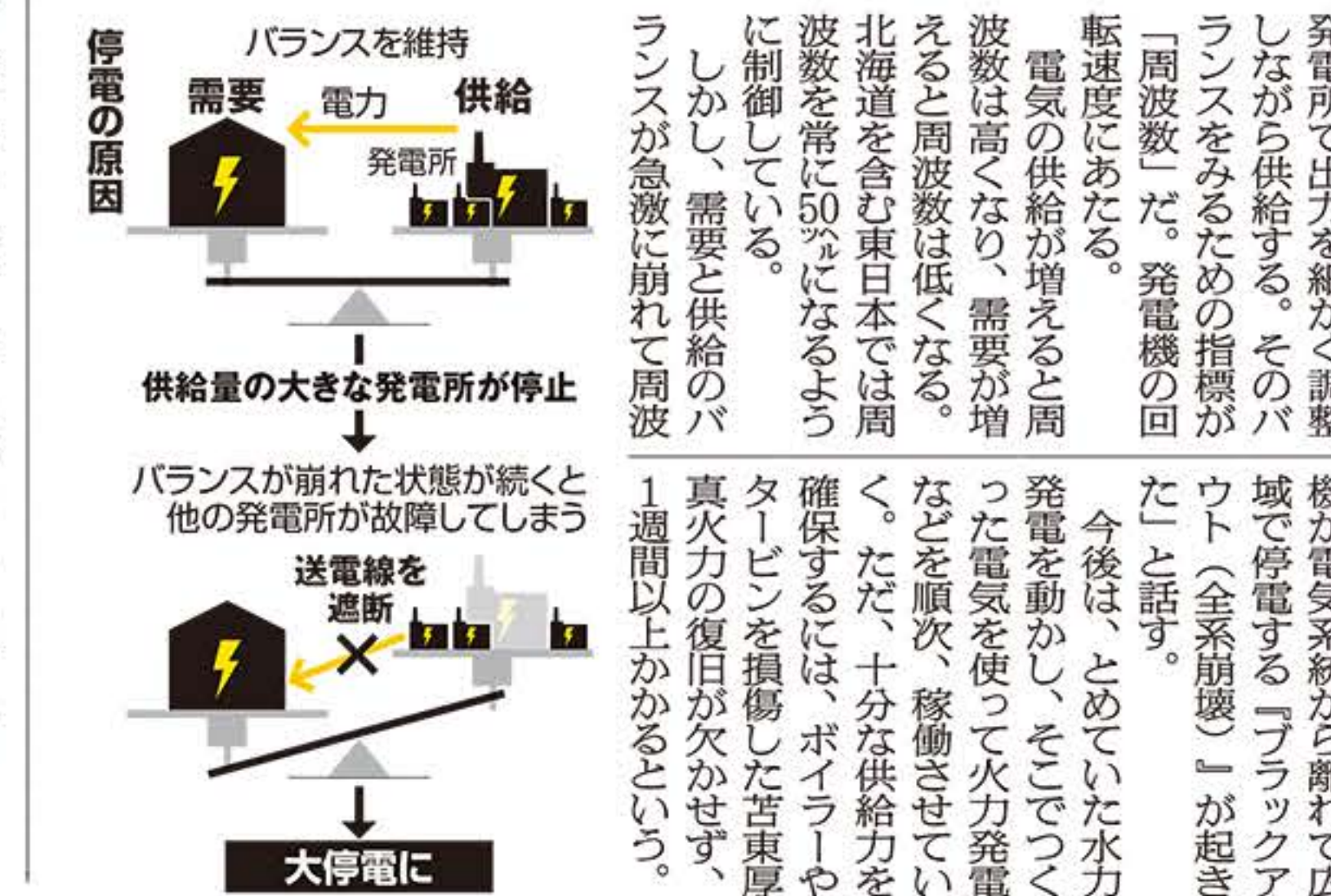
「ハイパー」ハイパーに渡った。6日午前8時半、札幌市の中心部を貫く大通公園近くの交差点で、早期から交通整理する警察官の笛や声が響き渡った。車はゆっくりと交差点に進入、人々は左右を確認しながら慎重に渡った。市内のほとんどの交差点の信号機は消えたまま、警察官の姿も見えない。車は譲り合いながら走るため、渋滞が発生。出合い頭に衝突しそうになると、クラクションを鳴らした。鉄道や地下鉄、路線バスは終日運休した。1日平均60万人以上が利用する札幌市営地下鉄、都心から10分ほどの円山公園駅の入り口では、人々が訪れ、「閉鎖中」の貼り紙を見て帰っていった。午前9時過ぎに来た無職男性(80)は「これまででは地震で停電しても、すぐに復旧していた。こんなに長い停電は初めてだ」と話す。テレビが見られず、数少ない情報源や通信手段となったのが、スマートフォンや携帯電話。電源を求める市民の姿もあり、札幌市役所は本庁舎で充電サービスを開始した。午後1時半までに「受付を終了」の看板が出た。充電を求めると、列は庁舎外まで延びていく。今から並んでも4時間かかると見られる。高層の部屋に住むのも考えもの。病院にも影響が出た。市内の病院に入院していた0歳の女児が酸素呼吸器が停電で使えなくなり、重症という。女児は別の病院に転院し、手当てを受けている。停電のため、救急の受け入れができる病院も限られている。

電力需給崩れ「ブラックアウト」

「極めてレアなケース。すべての電源が落ちるリスクは低いとみていた」。6日午後、札幌市の北海道電力本店。停電で薄暗い1階ロビーに設けられた。今回の停電は、離島などを除く北海道のほぼ全域で発生した。電気事業者連合会によると、大手電力会社のほぼ全域に及ぶ大規模停電は初めてだ。今回の停電の発端となった苫東厚真火力発電所(北海道厚真町)は、北電で最大の火力発電所であり、3基の能力は計165万キロワット。地震でとまり、北電は、この時点の供給力の半分以下を一気に失った。需給のバランスが崩れ、その影響がほかの発電所にも波及して、道内全域の停電に追い込まれた。経済産業省が想定していた北海道での発電設備トラブルによる供給力減少は129万キロワット。(165万キロワット)想定外だったと担当者も話す。電気が止まることで、必要な分だけ調整しながら供給する。そのパワースタビライゼーション(電力系統工学)は「北海道各地で電気の遮断がドミノ倒しのようにいっせいに起き、すべての発電機が電気を系統から離れた状態で停電する『ブラックアウト』(全系統崩壊)が起きた」と話す。今後は、とめていた水力発電を動かし、そこでつくった電気を使って火力発電などを順次、稼働させていく。ただ、十分な供給力を確保するには、ポライやタービンに損傷した苫東厚真火力の復旧が欠かせず、1週間以上かかるという。



「本州側から受け取れる電力は多くなく、北海道内はほぼ独立した系統。地震の発生が止まらないうえ、出力のバランスを維持するのが難しくなっている」と話す。一方、電力のシステムに詳しい茨城大・東京大特任教授は「地震はどこでも類や場所を分散することで、電源リスクを減らすことが重要だ。だが、完璧にするのは難しいので、大規模停電が起きた際の減災対策を考えておく必要がある」と指摘する。



地震の影響で緊急停止した北海道電力の苫東厚真火力発電所=6日午前10時39分、北海道厚真町、本社機から、山本壯一郎撮影

今回の大停電は「想定外」とは言い切れない。2011年の東日本大震災では、東京電力福島第一原発など多くの原発が止まり、首都圏では計画停電が実施された。一カ所に多くの発電設備を置く「集中立地」のリスクへの対応は、震災の教訓の一つだった。北海道での大停電が、暖房などで電力がより必要となる冬に起きていたら、被害はさらに大きくなった可能性は否定できない。交換の装置を動かすために交流の電気が必要だが、停電のために調達できず、すぐに使えなかった。しかも、連系線の能力は最大60万キロワット。苫東厚真火力の発電能力の2分の1に及ばない。北電は外部電源を本州との間に建設しているが、今回の事態には間に合わなかった。大阪府立大の石亀篤司教授(電力システム工学)は

本州側からの融通にも課題

動かすために交流の電気が必要だが、停電のために調達できず、すぐに使えなかった。しかも、連系線の能力は最大60万キロワット。苫東厚真火力の発電能力の2分の1に及ばない。北電は外部電源を本州との間に建設しているが、今回の事態には間に合わなかった。大阪府立大の石亀篤司教授(電力システム工学)は「本州側から受け取れる電力は多くなく、北海道内はほぼ独立した系統。地震の発生が止まらないうえ、出力のバランスを維持するのが難しくなっている」と話す。一方、電力のシステムに詳しい茨城大・東京大特任教授は「地震はどこでも類や場所を分散することで、電源リスクを減らすことが重要だ。だが、完璧にするのは難しいので、大規模停電が起きた際の減災対策を考えておく必要がある」と指摘する。

Dear NAMIE AMURO,
We just wanna keep on loving you.

#WeDontWannaCry
From mistio by DyDo

すばる Subaru October 2018

金原ひとみ アタラクシア
綿矢りさ オーラの発表会

歳月 保刈瑞穂
志水辰夫 過ぎたこと
森内俊雄 あれこれあれ
養老孟司 稲垣えみ子
伊藤比呂美 十細馬宏通

新連載 吉田篤弘

群像 Gunzo 2018 Issue 73 no.10 October

小山田浩子「ヒヨドリ」
紗倉まな「春、死なん」
富岡幸一郎×佐藤優「危機の時代」を読み解くI
季・憶 蓮實重彦
山下澄人 大震災で映画と出合った男
川上弘美 プラズマ・ヤマトの四重奏
藤野千夜 宮井忠彦 佐伯三

文学界 10月号 定価970円(税込) 文藝春秋

平野啓一郎のデビュー20年
小川洋子×平野啓一郎のフィクションだけがもつ力とは?
石田千鳥居 140枚
坂上秋成 私のたしかな娘 小谷野敦 実家が怖い

新潮 2018.10 今年114年目の文芸誌 新潮社 定価930円(税込)

象牛 石井遊佳 一八〇枚
古川日出男 大型戯曲 二〇〇枚
ローマ帝国の三島由紀夫 現代ローマの地底にサロメとミシマが再生する。奔流する超劇!

対談 ハレルヤ談義 保坂和志×湯浅学
人間の外側へ 村田沙耶香×西加奈子